

NGU 教養スタンダード

NGU 教養スタンダード

本学のカリキュラムの特色のひとつとして、どの学部の学生でも学べる「NGU 教養スタンダード科目」を開設しています。「NGU 教養スタンダード科目」は、現代社会で生きていくために必要な知識と技術をしっかり身につけ、専門知識だけに偏らない豊かな人間性を育てるために、次のような3つの目標を掲げて、カリキュラムを編成しています。

- キリスト教主義にもとづいた豊かな人格の形成
- 社会生活に必要な知識や技術の修得
- 成熟した市民として必要な教養の養成

NGU 教養スタンダード科目の構成

キリスト教に関する科目

「キリスト教」に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説」「キリスト教教学」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

自己理解と自己開発に関する科目

1年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」について理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～3b」などの科目を配置して、「将来なりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

社会的教養に関する科目

「人間理解」、「社会理解」、「自然理解」、「歴史文化理解」、「環境理解」、「身体理解」、「地域理解」

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには専門の学修だけでなく、一般教養の修得が欠かせません。文学、哲学、心理学を学ぶ「人間理解」、社会のしくみを考える「社会理解」、自然をさまざまな角度からながめる「自然理解」、人間や世界の文化や歴史を学ぶ「歴史文化理解」、地球環境や生態系について考察する「環境理解」、スポーツの実技と理論、健康について学ぶ「身体理解」、まちづくりを多様な視点から考える「地域理解」の中から、バランスのよい履修を心がけてください。

言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」の6カ国語を学ぶことができます（リハビリテーション学部、スポーツ健康学部は英語科目のみ）。また、「手話」や「日本語表現上級」も学修することができます。

情報理解に関する科目

情報教育の充実が、本学の大きな特色です。全学生にノートパソコンを配付し、すべての学生がコンピュータを使って学べるように指導しています。必修科目の「情報処理基礎」では、コンピュータやネットワークの基本的な利用方法を半年間でマスターします。

教職に関する科目

ここに配置されている科目は教員免許取得をめざして教職課程に加入している者だけが受講できる科目です。実際に教員免許を取得するためには、教職課程履修規程にもとづき、この領域の科目に加えて、その他の指定された科目を履修する必要があります。

科目表の見方

各学部学科の科目表（P70以降）は以下の構成であらわしています。

- 授業科目名：その科目の名称をあらわしています。
- 単位数：その科目の単位数をあらわしています。
「1」と表記されていたら1単位科目であり、「2」と表記されていたら2単位科目となります。
- 配当年次：その科目が受講できる年次をあらわしています。
「2」と表記されていたら、2年生以上の学生が履修することができます。
- ナンバリング：その科目の科目ナンバーをあらわしています。
- 必修、選択：その科目が必修科目であるのか、選択科目であるのかをあらわしています。
必修の欄に単位数が記載されていたら、その科目は必修科目となります。
- 選択必修科目：この欄に選択必修科目について記載をしています。
- 卒業要件：その学部学科の卒業要件をあらわしています。

地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）

大学 COC 事業に関する 4 年間の学修について

文部科学省は現在、「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」を通じて、全学的に地域と連携した教育・研究・社会貢献に取り組む大学を支援しています。2013 年 8 月、名古屋学院大学は同事業に採択され、学生のみなさんが地域のことに興味関心を抱き、学修意欲を高められるカリキュラムを充実させました。これにより、企業が必要とする「社会人基礎力」が高まり、4 年後の就職にも有利となることをめざしています。

※ COC は Center of Community の略で、地域再生の核となる大学の意味です。

名古屋学院大学の取り組みの概要

本学の COC 事業はキャンパスの立地する名古屋市および瀬戸市を対象とし、両市が抱える地域の課題について、「地域商業」「歴史観光」「減災福祉」のまちづくりを通じて解決をめざすものです。

「地域商業まちづくり」・・・商店街活性化などを通じて地域経済効果の増大をめざします。
「歴史観光まちづくり」・・・歴史の掘起しや地域資源の発掘により歴史観光を推進します。
「減災福祉まちづくり」・・・災害に強いひとづくり・まちづくりをめざします。

学生のみなさんは、下図に示すカリキュラムにより、行政や地域（住民・企業・団体）とも連携・協力しながら学修を進めていきます。これらの授業においては、教室内での学修はもちろんですが、学外でのイベントやフィールドワークに参加する場合があります。

COC に関するカリキュラムの流れ

カリキュラム	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
① 教育イベント「まちづくり提言コンペ」	→			
② 課題解決型授業（PBL）	→			
③ 地域志向型科目	→			
④ 教育イベント「地域フォーラム」			→	

- ① 全学生が参加する 1 年生の教育イベントとして、「基礎セミナー」において、名古屋市または瀬戸市にかかわる「まちづくり提言コンペ」を実施します。
- ② 課題解決型学習（PBL）として、全学共通の《NGU 教養スタンダード科目》において、地域商業・歴史観光・減災福祉に関する「まちづくり学」「まちづくり演習」を開設するとともに、希望者は「上級まちづくり演習」で継続受講することも可能です。
- ③ 全学部で、地域を学習対象とした地域志向型科目を充実していきます。
- ④ 全学生が参加する 3・4 年の教育イベントとして、「演習」での課題研究の成果などを地域の方向けに発表する「地域フォーラム」を実施します。

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）

COC+事業と2018年度のプログラム

「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」を踏まえ、地域と大学の連携をより深く進め、さらに地域での就業につなげるプログラムがCOC+（プラス）事業です。

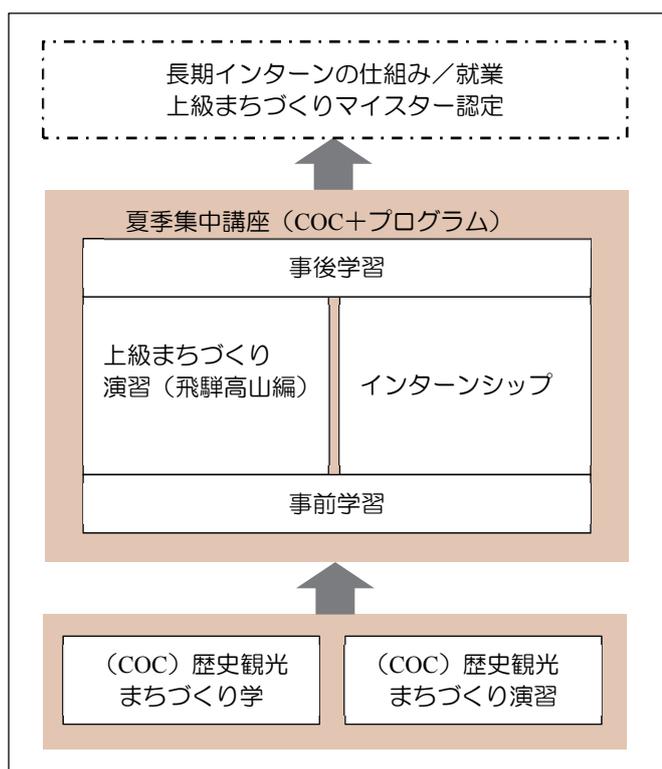
2018年度COC+プログラム

COC+のプログラムでは、大学COC事業で培った知識や経験を前段として、地域とともに将来の地域づくりを担う人材（上級まちづくりマイスター）を育成します。

2018年度は、名古屋学院大学がCOC事業で地域づくりの題材とする「歴史観光」分野で開講します。古くから観光地域づくりで先進的な岐阜県高山市における観光地域づくり人材育成プログラムです。

COC+のプログラムは、COC事業の「歴史観光まちづくり学」「歴史観光まちづくり演習」科目の単位を修得した学生または履修している学生が受講できます。名古屋キャンパスと瀬戸キャンパスの両方の学生が参加可能です。

高山市におけるCOC+プログラム「上級まちづくり演習」「インターンシップ」の流れと特徴



《プログラムの特徴》

- 将来的に観光産業をめざすなら、日本有数の観光地で国内外からも注目の高い高山市で、観光産業にかかわる実務者とともに実践的な演習を受けられます。
- 将来的にサービス産業をめざす学生にとって、単なるアルバイト目線ではなく、サービス産業従事者の視点をもつチャンスです。観光地ならではの宿泊産業の体験をとおして、サービス業におけるサービスとは何か、ホスピタリティとは何かを考え、表現するスキルが身につきます。
- 高山市には観光産業をはじめ、多くの分野の企業があります。飛騨高山や下呂などの出身の学生にとっては、自分の地域をよりよく知り、魅力を発見する機会になります。

マイスター認定制度

初級まちづくりマイスター

COCカリキュラムで開講中の「地域商業」「歴史観光」「減災福祉」の授業では、「まちづくり学」「まちづくり演習」の両方を履修し単位修得した学生に対し、「初級まちづくりマイスター」を認定します。

上級まちづくりマイスター

COC事業で初級まちづくりマイスターを認定された者のうち、「上級まちづくり演習」を履修し単位修得すること、かつ公的な社会的活動に従事したり公的資格の取得をした学生を対象に、「上級まちづくりマイスター」を認定します。

国際文化学部 国際文化学科

教育目標（学則第3条の2より）

国際文化学科は、現代社会に生起するさまざまな問題についての確に対応し、地域文化の多様性を理解するとともに文化交流の担い手として活動し、文化のグローバル・多文化共生を背景とした持続可能な社会の形成に必要な思考力・判断力・行動力を身につけた人材の育成を教育目標とする。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

国際文化学科に所属する学生は、学部および学科のカリキュラムを履修、学修することをとおして、以下の能力が獲得できる。これに併せて、卒業に必要とされる所定の単位と要件を満たした学生には国際文化学部から学士（国際文化）の学位が授与される。

知識・技能

- 1) 日本および世界の各地域の文化・歴史・社会・政治・経済などを学び、グローバル社会における多文化理解を身に付けることができる。
- 2) 国際社会における文化的対立の構造を理解することができる。
- 3) 多文化共生社会において求められる実践的な外国語運用能力とコミュニケーション能力を身に付けることができる。

思考力・判断力・表現力

- 4) 共生可能な持続的社会形成のための思考力・判断力・行動力を身に付けることができる。
- 5) 多文化共生社会における豊かな許容性を理解し、共働の精神をもってその実現へ向けての考えを整理し、他者に対して説明することができる。

主体性・多様性・協働性

- 6) 国際社会の一員として、国際理解学習を進め、国際交流活動に参画することができる。
- 7) 「敬神愛人」の精神が国際社会・多文化共生社会の中で重要な実践課題であることを自覚し、地域との協働や他者理解の必要性を学ぶことができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

国際文化学科はディプロマ・ポリシーで掲げた目標を達成するために、次のような教育内容、教育方法、学修成果の評価の方針に基づき、カリキュラム編成と授業実施を行う。カリキュラムの体系性、各授業科目とディプロマ・ポリシーの対応関係についてはカリキュラムマップ等で明示する。

教育内容

- 1) カリキュラムは、成熟した市民としての基礎的素養を修得する《NGU 教養スタンダード科目》、国際文化学部の2学科に共通して必要な知識・技能を修得する《学部共通科目》、国際文化学科の専門性を深める《学科専門科目》から学ぶ。
- 2) 《学部共通科目》においては、実践的な語学力を修得するため、英語および第2外国語（ドイツ語、フランス語、スペイン語）を学ぶ。

ン語、中国語から選択)を履修する。また、グローバル時代の国際文化の概念、その前提となる日本文化の特質を理解する。

- 3) 《学科専門科目》においては、英語の実践的な運用能力を高めるとともに、日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパをはじめ現代の文化圏について、文化・歴史・社会・政治・経済など多面的な視点から学ぶ。また、入学時の導入教育から卒業研究に至るまで、少人数による演習を4年間履修する。
- 4) 《国際協力関連科目》は、国際協力学科の開講科目の中から国際理解・国際交流を学ぶ上で必要な科目を配当する。

教育方法

- 1) 多人数講義においてもICTを活用した情報提供ツールを積極的に活用し、知的興味・関心を醸成する。
- 2) 国際社会で活躍する多様な経験者から実践的な指導を受ける機会を設ける。
- 3) 座学で学んだ国内外の文化を実践的に理解するため、フィールドワークや地域リサーチ活動を実施する。
- 4) それぞれの授業においてあらかじめ示された教育目標を達成させるとともに、個々の学生の学習進度に即して適切な課題や練習問題を与えることで、自学的学習を支援し、レポート課題や学習成果の評価を客観的かつ適切に実施する。
- 5) 講義科目においては、小テストや面接を通して受講生の学習状況や理解度の把握に努める。演習科目については、担当教員が学生相互の議論を誘導し、集団討議や成果発表を行う。

学修成果の評価

- 1) 各科目の評価は、原則として平常点および期末試験等による総合評価(100点満点)により行われる。
- 2) 思考力・判断力・表現力・態度等については、達成度指標を設けて段階的に評価する。
- 3) 4年間の学修成果の最終的なまとめとして、卒業論文(必修)の作成・発表を重視し、ディプロマ・ポリシーに適合するか否かについて評価する。

アドミッション・ポリシー(入学受入方針)

求める学生像

国際文化学科では、国際的視野をもって自立した将来設計を描くことを希求する者、具体的には下記の要件を備えたものを入学者として受け入れの対象とする。

- 1) グローバル時代における価値の共有化の中で、地域固有の文化に目を向け、地域の言語・文化・社会・経済などに多様な視点で関心をもつ者。
- 2) 実践的ツールとしての外国語運用能力を高める意志の強固な者。
- 3) 現実社会から実践的に課題を掘り起こし、その解決のための方策を考え行動する者。
- 4) 具体的な将来目標として、国際的ビジネスパーソン、国際的視野をもって観光・流通・交通などの業をめざす者、海外で日本を紹介し、また日本語・日本文化の指導者として活躍することを希望している者、国際協力・国際支援に関わるような活動に積極的に参画しようとする者など。

入学時までに身に付けるべき知識、能力等

- 1) 高等学校の教科に関する基礎的・基本的な知識・技能
- 2) 基礎的・基本的な知識・技能に基づき、自分の考えをまとめ、他者に伝えるための思考力・判断力・表現力
- 3) 教科の学習にとどまらず、学校内外の多様な学習や活動を経験することによる、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

入学者選抜

本学は、大学入学時まで培われた確かな基礎学力、各学部学科への適性、多様な学習や活動を通じて身に付けた能力や意欲等を、多面的・総合的に評価することを入学者選抜の基本的な方針とする。国際文化学科においてもこの原則に基づき、下記の多様な入学者選抜を実施する。

1) 学力試験

本学独自の学力試験または「大学入試センター試験」の成績に基づき、本学での学修に必要な基礎学力を有すると判断した者を選抜する。

2) 推薦試験

書類審査、面接、小論文等により、高等学校での成績や諸活動（特別活動、部活動、生徒会活動、取得資格等）の状況、各学科への適性や意欲等を評価する。

3) AO 試験

本学第1志望者を対象とし、書類審査（調査書等・事前課題）および講義・試験・ディスカッション等により、専攻学問分野の修得に必要な基礎的理解力・考察力・協調性・表現能力等を評価する。

4) グローバル人材特別入学試験

本学入学を第1志望とし、すでに英語運用能力において一定の学力を有するものを対象として、書類審査（調査書等）および面接により意欲、適性等を評価する。

カリキュラムの概要

国際文化学科の科目について

(1) 学科基幹科目

《学科基幹科目》は「国際文化理解」「国際文化交流」の学修の根幹をなす重要な科目を集めています。国際共通語としての英語のスキルを高めるため、1・2年次必修科目の「英語演習 1～6」を配置し、《NGU 教養スタンダード科目》<国際コミュニケーションスキル>と有機的に連動した外国語教育体系を構築しています。これらは国際文化を学修するための基本的なスキルであり、同時に2年次必修科目の「異文化コミュニケーション論」から多様に展開する多文化・異文化学習と相俟って、国際文化理解・国際交流を推進させるための学習体系となっています。また、「比較文化・社会論 1」を2年次必修とし、ヨーロッパの文化・社会と日本文化・社会のあり方を比較考察することで、多文化理解の糸口をつかむことができるようになっています。

このほか、選択科目として以下の13科目を1・2年次に配当しています。

「比較文化・社会論 2」「文化マネジメント論」「多文化共生社会論」「東西交渉史」「観光文化論」「現代芸術論」

「メディア文化論」「情報文化論」「多文化教育論」「人間行動論」「比較認知科学」「比較社会心理学」「現代経済入門」

(2) グローバル文化展開科目

《学科基幹科目》の学修と並行して《グローバル文化展開科目》および《日本アジア文化展開科目》が配置され、学生は適切な履修モデルを参照しつつ、広範な文化体系の中から各自の専門的分野を選択することができます。それは「地域」ベースの選択と「文化の理論や構造」の選択的学修によって構成されています。《グローバル文化展開科目》は、アメリカ、ヨーロッパをはじめ世界を構成する現代の文化圏について、地域的文化・宗教・生業などの多面的な視点から学ぶことで、グローバル社会の現状を広く理解するとともに、文化の成立・変容・地域化などを学ぶことが可能となります。2・3年次の選択科目として以下の21科目を配置しています。

「アメリカ社会文化論」「アメリカ政治経済論」「英米文学概論 1」「英米文学概論 2」「英米文学講義 1」

「英米文学講義 2」「英文学史」「米文学史」「ヨーロッパ文化総論」「ヨーロッパ地域文化論 A」

「ヨーロッパ地域文化論 B」「ヨーロッパ地域文化論 C」「地中海文化圏論」「日欧交流史」「環太平洋地域文化論」

「イスラム文化圏論」「文化変容論」「マイノリティ論」「比較文化行動論」「グローバル経済論」
「グローバル・ビジネス・コミュニケーション」

(3) 日本アジア文化展開科目

《学科基幹科目》の学修と並行して《グローバル文化展開科目》および《日本アジア文化展開科目》が配置され、学生は適切な履修モデルを参照しつつ、広範な文化体系の中から各自の専門的分野を選択することができます。それは「地域」ベースの選択と「文化の理論や構造」の選択的学修によって構成されています。この《日本アジア文化展開科目》の科目区分では、日本の歴史・文化・社会的特質・慣習・宗教などを多面的に理解するとともに、中国文化圏をはじめとしたアジア諸国の歴史と現状を学びます。2・3年次の選択科目として以下の16科目を配置しています。

「日本文化史」「日本の思想」「日本の民俗学」「日本社会論」「日本地域史論」「日本アジア交流史」「現代中国事情」
「中国文化社会論」「韓国文化社会論」「現代アジア文化社会論」「南アジア文化社会論」「日中関係論」
「中国社会経済論」「日本のポップカルチャーとアジア」「アジアの商習慣」「アジア就業事情」

(4) 国際協力関連科目

国際協力学科開設科目のうち《国際協力関連科目》として選択6科目を配置し、本学科の教育目標である国際文化理解・国際交流をさらに一歩進めた国際協力の視野を修得することができます。

(5) 留学単位振替科目

国際文化学部では、可能なかぎり海外での研修・実地体験を経験するために、留学やスタディーツアーへの参加を推奨しています。本学が実施する長期留学（1年間）や中期留学（およそ6か月）に参加し、その期間中に当該大学で修得した正規の単位については、本学部の規程に従って、本学部の教育課程にある科目に振替認定することができます。また短期留学やスタディーツアーでの学修は、《留学単位振替科目》の「海外事情1～4」として認定されます。

カリキュラム上の特色

国際文化学部は、建学の精神である「敬神愛人」にもとづき、4年間の間に《NGU 教養スタンダード》に配当されている多彩な科目によって本学の礎であるキリスト教主義とその実践的課題を学ぶとともに、現代社会で生きるために知恵と知識、さらにはコミュニケーションの基礎を学修します。これは名古屋学院大学で学ぶ上での基礎的教養を形成する大切なプロセスです。

国際文化学部としての専門教育においては、優れた外国語運用能力とともに、多文化間の相互理解と交流、さらには文化的支援に主力を置いた国際協力をとおして、グローバルに活躍する人材を育成することを学部のカリキュラム・ポリシーの中心に据えています。本学部が学生に修得させる能力は、以下のようにまとめることができます。

- ① グローバル社会に生起するさまざまな問題についての確に対応できる多文化理解と持続的社会形成のための思考力・判断力・行動力を身につける。
- ② グローバルに展開する社会・経済・文化の持続的発展に貢献する豊かな教養と人間性を養う。
- ③ グローバル社会に対応するために、日本文化の基礎を確実に身につけ、多文化理解における比較文化の視点を明確にもたせる。
- ④ 多様な文化的世界において、自己の考え方を相手に正しく説明し、また、相手の意見を十分に理解するコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身につけさせる。

これらの能力を修得させるため、国際文化学部の教育課程を《NGU 教養スタンダード科目》《学部共通科目》《学科専門科目》から編成していますが、特に学部共通の課題として多くの科目が提供されています。

《学部共通科目》の中の〈国際コミュニケーションスキル〉は、多様な文化的世界におけるコミュニケーション能力・プ

レゼンテーション能力を獲得するものです。また、〈国際理解〉科目は、グローバル社会に生起するさまざまな問題についての確に対応できる多文化理解を養うものとして配当されています。

〈国際コミュニケーションスキル〉には国際共通語としての英語の段階的な学習に沿った科目を 11 科目（11 単位）配置しています。また、第 2 外国語としてドイツ語、フランス語、スペイン語および中国語の科目をそれぞれ 6 科目（6 単位）ずつ配置し、2 年次から 3 年次に配当しています。「時事」「応用」「実践」のそれぞれ「1」と「2」を選択必修とし、〈NGU 教養スタンダード科目〉の「入門」「基礎」のそれぞれ「1」と「2」と合わせて 10 単位分を修得することで、英語以外の言語でも実践的な力をつけることを目標としています。さらにアジア諸語の入門科目、現代社会で必須の「コンピュータ技法」に関する科目が配当されています。

〈国際理解〉科目は、国際文化・国際社会を理解するための基本的な学修に則した科目を配置しています。とりわけ、グローバル時代の国際文化の概念とあり方を考察する「国際文化論」および、国際文化を学ぶ前提となる日本文化の特質を理解する「日本文化論」を必修として、日本の歴史と現状を見据えた国際人となることを期待しています。また、選択科目として、本学の建学の精神に連なる「キリスト教文化論 1・2」のほか、「グローバル社会文化論」「日本史概説」「比較宗教論」「国際関係論」などを開講することにより、国際的な理解・交流・協力・支援のマインドを身につけ、〈学科専門科目〉の学修を効果的なものとするようにカリキュラム設計がなされています。

このような学部カリキュラム全体の上に、さらに国際文化学科では、独自の特徴を加味しています。

国際文化学科の特色

国際文化学科の〈学科専門科目〉は〈学科基幹科目〉〈グローバル文化展開科目〉〈日本アジア文化展開科目〉〈国際協力学関連科目〉および〈演習科目〉〈海外留学振替科目〉から構成され、以下の分野を含んでいます。

- ① 豊富な地域文化理解科目により日本および国際文化の多様な実情を理解する分野
- ② 多文化理解、国際社会における文化的対立の構造と解決に必要な学修分野
- ③ ヨーロッパを中心とする文化圏とアジア文化圏、さらにはそれらの歴史的諸関係で形成された文化圏など、国・地域という概念を超えた世界の認識方法についての理解とそれにもとづく国際的文化活動への理解と参画に必要な学修分野

その他

国際文化を学ぶ上で、海外における生活体験・行動経験あるいは国内外でのフィールドワークはとても大切なものです。時間や経済的に多くの制約条件がありますが、多くの学生が経験を積む機会を得られるように、留学、スタディーツアー、フィールドワークなどを卒業要件単位の中で履修できるように配慮されています。

国際文化学科では「フィールドワーク」を、重要な実践科目として位置づけています。これは選択科目であり、多くは夏季または春季休暇に集中形式で実施されますが、在学期間中の早期に参加・体験することを推奨しています。

学科専門科目への認定

社会で役立つ実践的な教育を重視している国際文化学科では、資格試験や留学など、みなさんの志望にあわせて効果的な学修ができるよう、さまざまな資格取得のためのバックアップをおこなっています。教育課程（カリキュラム）の中で、各種の資格検定試験に向けての指導をおこなうほか、学科が指定した資格検定試験の結果をみなさんが申請することにより、所定の単位を認定（R 評価として認定）する制度があります。次の各項に掲げる資格検定試験の合格者（基準点を示している試験については、この基準点をクリアした学生）については、次の授業科目の単位を修得したのものとして認定しています。これらに該当し認定を希望する学生は、定められた期間内に教務課で所定の手続きをおこなってください。ただし、入学前に取得した資格等は、入学年度以外は申請を許可しません。同科目を履修中の場合は、申請が認められ次第、同科目の単位が認定されますので、それ以降の受講は不要となります。

国際文化学科の検定試験結果による単位認定について

項番	単位認定の対象となる検定試験	認定される授業科目 (単位数)	認定される 単位数合計
1	実用英語技能検定（英検） 2級以上 TOEIC Listening&Reading または TOEIC Listening&Reading IP 480点以上 TOEFL ITP 430点以上 TOEFL iBT 40点以上	① 英語演習3・4・5・6（各1）	1単位以内
2	ドイツ語技能検定試験（独検） 5級以上 ドイツ語検定試験（ゲーテ・インスティトゥートの検定試験） A1以上 オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験（ösd（エーエステー）） A1以上	① 応用ドイツ語1・2（各1） ② 時事ドイツ語1・2（各1）	1単位以内
	ドイツ語技能検定試験（独検） 4級以上 ドイツ語検定試験（ゲーテ・インスティトゥートの検定試験） A2以上 オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験（ösd（エーエステー）） A2以上	① 応用ドイツ語1・2（各1） ② 時事ドイツ語1・2（各1） ③ 実践ドイツ語1・2（各1）	1単位以内
3	実用フランス語技能検定試験（仏検） 5級以上 フランス語能力認定試験（TEF） A1以上	① 応用フランス語1・2（各1） ② 時事フランス語1・2（各1）	1単位以内
	実用フランス語技能検定試験（仏検） 4級以上 フランス語能力認定試験（TEF） A2以上	① 応用フランス語1・2（各1） ② 時事フランス語1・2（各1） ③ 実践フランス語1・2（各1）	1単位以内
4	スペイン語技能検定（西検） 6級以上 DELE（外国語としてのスペイン語検定試験） A1以上	① 応用スペイン語1・2（各1） ② 時事スペイン語1・2（各1）	1単位以内
	スペイン語技能検定（西検） 5級以上 DELE（外国語としてのスペイン語検定試験） A2以上	① 応用スペイン語1・2（各1） ② 時事スペイン語1・2（各1） ③ 実践スペイン語1・2（各1）	1単位以内
5	中国語検定試験（中検） 準4級以上 HSK（漢語水平考試） 1級以上	① 応用中国語1・2（各1） ② 時事中国語1・2（各1）	1単位以内
	中国語検定試験（中検） 4級以上 HSK（漢語水平考試） 2級以上	① 応用中国語1・2（各1） ② 時事中国語1・2（各1） ③ 実践中国語1・2（各1）	1単位以内

- (1) 単位が認定される授業科目の成績評価は、いずれの場合も「R」とします。
- (2) 1について、英検・TOEIC・TOEFLの申請は各1回とします。
- (3) 2、3、4、5について、申請は2回までとします。
- (4) 2、3、4、5について、選択言語にかぎります。
- (5) 5について、HSK（漢語水平考試）の結果が合否でなくスコア表示の場合は、180点以上の得点とします。
- (6) 申請は教務課で受け付けます。

- (7) 申請日以前2年以内に取得したものにすぎます(ただし、入学前に取得した資格の単位認定申請については、入学年度にかぎり受けつけますが、翌年度以降の申請は受けつけません)。

他学科科目の履修

国際文化学部では、他学科科目の履修が認められており、《自由選択科目(フリーゾーン)》として卒業要件に含まれます。なお、詳細は別途案内します。

演習科目について

演習科目とは

《演習科目》は1年次から卒業まで必修として配当されています(1年次においては《NGU教養スタンダード科目》の枠組みで配置)。2年次に配当される「国際文化基礎演習1・2」では国際理解・交流の基礎を学び、3・4年次に配置されている「国際文化演習」では担当教員の指導を得ながら卒業研究・論文作成に至る専門的学修をおこないます。また、「国際文化理解実践論1・2」において国際場面における実践的学習の方法と実践後のプレゼンテーションを学び、海外で実施される短期研修での体験と有機的に結合させるようにプログラム化されています。

演習科目の履修にあたって

1年生が対象の「基礎セミナー」「発展セミナー」はあらかじめクラス指定がされています。また2年生で開講される「国際文化基礎演習」も原則的にクラス指定をして、広く国際理解・国際交流に関する自主的学習のための基礎づけをおこないます。3・4年を対象とする「国際文化演習」は2年間連続して受講し、卒業論文を提出することによって所定の単位が与えられます。「国際文化演習」の選択にあたっては、学生のみなさんが希望する教員・専門的分野を選択し、教員の選考を経てゼミの一員となることができます。

「国際文化演習」の履修について

「国際文化演習」の所属は、学生への希望調査をもとに成績・面接などによって選抜し決定します。なお、その履修にあたっては、次の2つの条件をクリアしていなければなりません。

- ① 「基礎セミナー」の単位を修得していること
- ② 2年次の終了時点で、40単位以上を修得していること

履修モデル

国際文化学科の履修モデルの基本的な考え方は次のとおりです。

国際文化学科の養成する人材像に対応して、《グローバル文化展開科目》《日本アジア文化展開科目》に対応した履修モデルを提示しますが、これはあくまでモデルであって、学生のみなさんは、それぞれの興味・関心を中心に置きながら、体系的な学修を進めてください。

- ① 広くグローバル文化を学修し、国際的視野に立つ企業や機関などで活躍する学生のために望ましいモデル(グローバル文化モデル)
 - a) 想定される進路
一般企業、海外展開する国際企業、観光・航空・物流など国際コミュニケーション力を必要とする企業、行政

機関など

b) 履修モデルの考え方

グローバルな視野に立って多文化社会を理解し国際的な場で活躍するため、優れた外国語運用能力を備え、文化・歴史・社会・政治・経済などの広範な知識をもとに複雑な国際関係を理解するように構築されています。

c) 履修科目の概要

国際文化学部において、英語教育の根幹部分は必修科目として配当されています。1年次の学生は、《NGU 教養スタンダード科目》における必修の「基礎英語 1・2」「英会話 1・2」で基礎的な英語力を修得すると同時に、国際文化学科《学科基幹科目》における必修の「英語演習 1・2」を履修します。続いて2年次で「英語演習 3・4・5・6」(必修)を履修し、いっそう応用力を増した英語力を獲得することが目標です。同時に、本学科では第2外国語を選択必修とし、ドイツ語、フランス語、スペイン語、および中国語のいずれかについて、1年次から3年次まで、10科目(10単位)を履修します。このほか、さらに上級の英語能力を養う科目を多数配置し、選択することが可能です。

この履修モデルでは、《専門科目》の《グローバル文化展開科目》を中心に履修を進めます。グローバル文化社会の牽引力でもある「アメリカ社会文化論」「アメリカ政治経済論」を学ぶとともに、「ヨーロッパ地域文化論 A・B・C」など西洋文化にかかわる科目を履修します。また、世界を構成する現代の文化圏について、地域的・文化・宗教・生業などの多面的な視点から学ぶことで、グローバル社会の現状を広く理解できるように履修することになります。さらに、この目標のいっそうの充実のためには文化の成立・変容・地域化などを理論的に学習する科目の受講を推奨しています。

② 激動し、国際力を強めるアジア地域を中心とした国際社会で活躍する学生のために望ましいモデル(日本アジア文化モデル)

a) 想定される進路

一般企業、アジアを中心に展開する国際企業、観光・航空・流通などの企業、行政機関など

b) 履修モデルの考え方

広く我が国内外における多文化社会、多文化共生・協働を理解し、日本とアジアの関係を中心に学習を進め、アジアを中心とした国際社会への参画を志す人材のための教育プログラムを提示しています。

c) 履修科目の概要

英語および第2外国語に関する履修科目については、上記の「グローバル文化モデル」と同様です。

この履修モデルでは、《日本アジア文化展開科目》を中心に履修を進めていきます。現在の青年層が学ぶ機会が少ないと思われる「日本文化史」「日本社会論」などをとおして、日本の歴史・文化・社会的特質・慣習・宗教などを多面的に学修することが推奨されています。あわせて、アジア文化の中核ともいえる中国文化圏に関して「現代中国事情」「中国社会経済論」などを履修するとともに、アジア諸国の歴史と現状を学びます。これにより、アジア世界を客観的に見る目を養うとともに、日本とアジア地域との深い関係について、歴史を踏まえた上で現実の政治経済を理解することができるようになります。

卒業要件

卒業要件単位の修得

国際文化学部のカリキュラム表にもとづいて必要な単位数（124 単位）以上を修得しなければなりません。

卒業要件単位数

上記の、学則第 16 条に規定する単位数（124 単位）を卒業要件単位数といいます。それぞれの単位数には必修科目を含みます。授業科目表と照らして区分ごとの要件をよく確認し、4 年間の履修計画をしっかりと立ててください。

NGU教養 スタンダード科目	キリスト教	4単位以上	34単位以上	
	自己理解と自己開発	6単位以上		
	社会的教養	人間理解、社会理解、自然理解 歴史文化理解、環境理解 身体理解、地域理解		12単位以上
	言語とコミュニケーション	10単位以上		
	情報理解	2単位以上		
学部共通科目			16単位以上	
学科専門科目	学科基幹科目	18単位以上	56単位以上	
	グローバル文化展開科目	26単位以上		
	日本アジア文化展開科目			
	国際協力関連科目			
	留学単位振替科目	12単位		
演習科目				
自由選択科目(フリーゾーン) ^{※1}			18単位以上	
合計			124単位以上	

※1 NGU教養スタンダード科目、学部共通科目、学科専門科目、オープン科目を問わない自由な選択

授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング	
	必修	選択			
キリスト教					
キリスト教概説	2		1	AV1101	
キリスト教教学	2		1	AV1102	
キリスト教と文学		2	2	AV2301	
キリスト教と文化		2	2	AV2302	
キリスト教倫理		2	2	AV2303	
キリスト教史		2	1	AV1301	
自己理解と自己開発					
基礎セミナー	2		1	AW1101	
発展セミナー		2	1	AW1301	
キャリアデザイン1a		2	1	AW1302	
キャリアデザイン1b		2	1	AW1303	
キャリアデザイン2a		2	2	AW2301	
キャリアデザイン2b		2	2	AW2302	
キャリアデザイン3a		2	3	AW3301	
キャリアデザイン3b		2	3	AW3302	
ボランティア学		2	1	AW1304	
ボランティア演習		2	1	AW1305	
インターンシップ1		2	1	AW1306	
インターンシップ2		2	1	AW1307	
社会的教養					
人間理解	哲学		2	1	AX1301
	哲学史		2	1	AX1302
	日本文学		2	1	AX1304
	日本文学史		2	1	AX1305
	心理学概論		2	1	AX1306
	文明論		2	1	AX1310
	宗教と人間		2	1	AX1311
	聖書と人間		2	1	AX1312
	キリスト教人間学		2	2	AX2301
	死生学		2	1	AX1313
臨床心理学		2	1	AX1314	
社会理解	社会学入門		2	1	AX1315
	宗教社会学		2	1	AX1316
	比較宗教学		2	1	AX1317
	日本国憲法		2	1	AX1318
	現代社会と法律		2	1	AX1319
	現代社会と経済		2	1	AX1321
	企業と社会		2	1	AX1323
	国際関係論入門		2	1	AX1324
	国際政治学		2	1	AX1325
	国際社会問題		2	1	AX1327
現代社会と教育		2	1	AX1328	
平和学入門		2	1	AX1329	
人権と社会		2	1	AX1330	
自然理解	数学		2	1	AX1331
	数理学		2	1	AX1332
	基礎統計学		2	1	AX1333
	実用統計学		2	1	AX1334
	化学		2	1	AX1335
	生物学		2	1	AX1337
	地球科学概論		2	1	AX1338
	地球物理学概論		2	1	AX1339
	人類学		2	1	AX1340
	物理学		2	1	AX1341
生命倫理		2	1	AX1343	

授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング	
	必修	選択			
歴史文化理解	日本史		2	1	AX1344
	日本思想史		2	1	AX1345
	中国文化入門		2	1	AX1347
	英米文化入門		2	1	AX1348
	文化人類学入門		2	1	AX1349
	世界の近現代史		2	1	AX1350
	世界史		2	1	AX1351
	考古学入門		2	1	AX1352
	陶芸論		2	1	AX1353
	陶芸演習		2	1	AX1354
環境理解	環境科学		2	1	AX1355
	生態学		2	1	AX1356
	地球環境学		2	1	AX1358
身体理解	健康の科学		2	1	AX1359
	スポーツの科学		2	1	AX1360
	スポーツ初級A		1	1	AX1361
	スポーツ初級B		1	1	AX1362
	スポーツ中級A		1	2	AX2302
	スポーツ中級B		1	2	AX2303
	スポーツ上級A		1	3	AX3301
スポーツ上級B		1	3	AX3302	
地域理解	地域商業まちづくり学		2	1	AX1363
	歴史観光まちづくり学		2	1	AX1364
	減災福祉まちづくり学		2	1	AX1365
	地域商業まちづくり演習		2	1	AX1366
	歴史観光まちづくり演習		2	1	AX1367
	減災福祉まちづくり演習		2	1	AX1368
上級まちづくり演習		2	2	AX2304	
言語とコミュニケーション					
日本語表現		2		1	AJ1101
日本語表現上級			2	1	AJ1301
基礎英語1		1		1	AJ1102
基礎英語2		1		1	AJ1103
英会話1		1		1	AJ1104
英会話2		1		1	AJ1105
入門ドイツ語1			1	1	AJ1201
入門ドイツ語2			1	1	AJ1202
基礎ドイツ語1			1	1	AJ1203
基礎ドイツ語2			1	1	AJ1204
入門フランス語1			1	1	AJ1205
入門フランス語2			1	1	AJ1206
基礎フランス語1			1	1	AJ1207
基礎フランス語2			1	1	AJ1208
入門スペイン語1			1	1	AJ1209
入門スペイン語2			1	1	AJ1210
基礎スペイン語1			1	1	AJ1211
基礎スペイン語2			1	1	AJ1212
入門中国語1			1	1	AJ1213
入門中国語2			1	1	AJ1214
基礎中国語1			1	1	AJ1215
基礎中国語2			1	1	AJ1216
入門韓国語1			1	1	AJ1217
入門韓国語2			1	1	AJ1218
基礎韓国語1			1	1	AJ1219
基礎韓国語2			1	1	AJ1220
手話入門			1	1	AJ1302
手話基礎			1	1	AJ1303
情報理解					
情報処理基礎		2		1	AZ1101
情報概論			2	2	AZ2301

選択必修科目
ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語の中から1ヶ国語を選択し、入門・基礎・時事・応用・実践の1と2を修得しなければなりません。

入門ドイツ語1・2	入門スペイン語1・2
基礎ドイツ語1・2	基礎スペイン語1・2
時事ドイツ語1・2	時事スペイン語1・2
応用ドイツ語1・2	応用スペイン語1・2
実践ドイツ語1・2	実践スペイン語1・2
入門フランス語1・2	入門中国語1・2
基礎フランス語1・2	基礎中国語1・2
時事フランス語1・2	時事中国語1・2
応用フランス語1・2	応用中国語1・2
実践フランス語1・2	実践中国語1・2

国際文化学科 専門科目

授業科目名	単位数		配当 年次	ナンバ リング	
	必修	選択			
国際コミュニケーションスキル					
国際文化理解英語1		1	2	WB2301	
国際文化理解英語2		1	2	WB2302	
留学英語中級		1	2	WB2303	
留学英語上級		1	2	WB2304	
TOEIC英語入門		1	1	WB1301	
TOEIC英語基礎1		1	2	WB2305	
TOEIC英語基礎2		1	2	WB2306	
TOEIC英語実践1		1	2	WB2307	
TOEIC英語実践2		1	2	WB2308	
ビジネス英語1		1	2	WB2309	
ビジネス英語2		1	2	WB2310	
時事ドイツ語1		1	2	WB2311	
時事ドイツ語2		1	2	WB2312	
応用ドイツ語1		1	2	WB2313	
応用ドイツ語2		1	2	WB2314	
実践ドイツ語1		1	3	WB3301	
実践ドイツ語2		1	3	WB3302	
時事フランス語1		1	2	WB2315	
時事フランス語2		1	2	WB2316	
応用フランス語1		1	2	WB2317	
応用フランス語2		1	2	WB2318	
実践フランス語1		1	3	WB3303	
実践フランス語2		1	3	WB3304	
時事スペイン語1		1	2	WB2319	
時事スペイン語2		1	2	WB2320	
応用スペイン語1		1	2	WB2321	
応用スペイン語2		1	2	WB2322	
実践スペイン語1		1	3	WB3305	
実践スペイン語2		1	3	WB3306	
時事中国語1		1	2	WB2323	
時事中国語2		1	2	WB2324	
応用中国語1		1	2	WB2325	
応用中国語2		1	2	WB2326	
実践中国語1		1	3	WB3307	
実践中国語2		1	3	WB3308	
コミュニケーション中国語1		1	1	WB1302	
コミュニケーション中国語2		1	1	WB1303	
ビジュアル中国語		1	2	WB2327	
日常中国語1		1	2	WB2328	
日常中国語2		1	2	WB2329	
中国語検定読解入門		1	3	WB3309	
アジア言語入門1		1	2	WB2330	
アジア言語入門2		1	2	WB2331	
コンピュータ技法1		2	2	WB2332	
コンピュータ技法2		2	2	WB2333	
国際理解					
国際文化論	2		1	WB1101	
キリスト教文化論1		2	2	WB2334	
キリスト教文化論2		2	2	WB2335	
文化人類学		2	1	WB1304	
グローバル社会文化論		2	1	WB1305	
日本史概説		2	1	WB1306	
日本文化論	2		1	WB1102	
比較宗教論		2	2	WB2336	
宗教と平和		2	2	WB2337	
国際環境論		2	2	WB2338	
学部共通科目	英語演習1	1	1	WB1103	
	英語演習2	1	1	WB1104	
	英語演習3	1	2	WB2101	
	英語演習4	1	2	WB2102	
	英語演習5	1	2	WB2103	
	英語演習6	1	2	WB2104	
	異文化コミュニケーション論	2		2	WB2105
	比較文化・社会論1	2		2	WB2106
	比較文化・社会論2		2	2	WB2339
	文化マネジメント論		2	2	WB2340
	多文化共生社会論		2	2	WB2341
	東西交渉史		2	2	WB2342
	観光文化論		2	2	WB2343
	現代芸術論		2	2	WB2344
	メディア文化論		2	2	WB2345
	情報文化論		2	2	WB2346
	多文化教育論		2	2	WB2347
	人間行動論		2	2	WB2348
	比較認知科学		2	2	WB2349
	比較社会心理学		2	2	WB2350
	現代経済入門		2	2	WB2351

授業科目名	単位数		配当 年次	ナンバ リング	
	必修	選択			
グローバル文化展開科目	アメリカ社会文化論		2	2	WB2352
	アメリカ政治経済論		2	2	WB2353
	英米文学概論1		2	2	WB2354
	英米文学概論2		2	2	WB2355
	英米文学講義1		2	2	WB2356
	英米文学講義2		2	2	WB2357
	英文学史		2	2	WB2358
	米文学史		2	2	WB2359
	ヨーロッパ文化総論		2	2	WB2360
	ヨーロッパ地域文化論A		2	2	WB2361
	ヨーロッパ地域文化論B		2	2	WB2362
	ヨーロッパ地域文化論C		2	2	WB2363
	地中海文化圏論		2	2	WB2364
	日欧交流史		2	3	WB3310
	環太平洋地域文化論		2	3	WB3311
	イスラム文化圏論		2	3	WB3312
文化変容論		2	3	WB3313	
マイノリティ論		2	2	WB2365	
比較文化行動論		2	3	WB3314	
グローバル経済論		2	3	WB3315	
グローバル・ビジネス・コミュニケーション		2	3	WB3316	
日本アジア文化展開科目	日本文化史		2	2	WB2366
	日本の思想		2	2	WB2367
	日本の民俗学		2	2	WB2368
	日本社会論		2	2	WB2369
	日本地域史論		2	3	WB3317
	日本アジア交流史		2	2	WB2370
	現代中国事情		2	2	WB2371
	中国文化社会論		2	2	WB2372
	韓国文化社会論		2	2	WB2373
	現代アジア文化社会論		2	2	WB2374
	南アジア文化社会論		2	2	WB2375
	日中関係論		2	2	WB2376
	中国社会経済論		2	3	WB3318
	日本のポップカルチャーとアジア		2	3	WB3319
アジアの商習慣		2	3	WB3320	
アジア就業事情		2	3	WB3321	
国際関係科目	文化交流論		2	2	WB2377
	ジェンダー論		2	2	WB2378
	国際人権論		2	2	WB2379
	平和学		2	2	WB2380
	国際地理論		2	1	WB1307
	世界遺産と保全		2	3	WB3322
振替学科単目	海外事情1		2	1	WB1601
	海外事情2		2	1	WB1602
	海外事情3		2	1	WB1603
	海外事情4		2	1	WB1604
演習科目	フィールドワーク		1	1	WB1308
	国際文化理解実践論1		2	1	WB1309
	国際文化理解実践論2		2	1	WB1310
	国際文化基礎演習1	2		2	WB2107
	国際文化基礎演習2	2		2	WB2108
国際文化演習	8		3・4	WB3101、WB4101	

卒業要件

NGU教養スタンダード科目	キリスト教	4単位以上	34単位以上	
	自己理解と自己開発	6単位以上		
	社会的教養	人間理解、社会理解、自然理解 歴史文化理解、環境理解 身体理解、地域理解		12単位以上
	言語とコミュニケーション	情報理解		10単位以上 2単位以上
学部共通科目			16単位以上	
学科専門科目	学科基幹科目	18単位以上	56単位以上	
	グローバル文化展開科目			
	日本アジア文化展開科目			
	国際協力関連科目	26単位以上		
	留学単位振替科目	12単位		
演習科目				
自由選択科目(フリーゾーン) ^{※1}			18単位以上	
合計			124単位以上	

※1 NGU教養スタンダード科目、学部共通科目、学科専門科目、オープン科目を問わない自由な選択

国際文化学部 国際協力学科

教育目標（学則第3条の2より）

国際協力学科は、グローバルに展開する地域固有の文化・社会・経済・宗教などの現状を理解し、個別地域社会や多文化社会との積極的な交流・協力・支援を通して、地球レベルでの持続的文化発展に貢献する豊かな教養と人間性を身につけた人材の育成を教育目標とする。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

国際協力学科に所属する学生は、学部および学科のカリキュラムを履修、学修することをおして、以下の能力が獲得できる。これに併せて、卒業に必要とされる所定の単位と要件を満たした学生には国際文化学部から学士（国際文化）の学位が授与される。

知識・技能

- 1) 国際協力を学習する前提として、日本および世界の各地域の文化・歴史・社会・政治・経済などを学び、グローバル社会における多文化理解を身に付けることができる。
- 2) 国際社会、とりわけ発展途上国における政治的・社会的・文化的対立の構造を理解し、その解決のための行動のあり方を考察し、また実践することができる。
- 3) 多文化共生社会において求められる実践的な外国語運用能力とコミュニケーション能力を身に付けることができる。

思考力・判断力・表現力

- 4) 共生可能な持続的社会形成のための思考力・判断力・行動力を身に付けることができる。
- 5) 多文化共生社会における豊かな許容性を理解し、共働の精神をもってその実現へ向けての考えを整理し、他者に対して説明することができる。

主体性・多様性・協働性

- 6) 国際社会の一員として、国際理解学習を進め、国際協力・支援活動に参画することができる。
- 7) 「敬神愛人」の精神が国際社会・多文化共生社会の中で重要な実践課題であることを自覚し、地域との協働や他者理解の必要性とそのための実践力を学ぶことができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

国際協力学科はディプロマ・ポリシーで掲げた目標を達成するために、次のような教育内容、教育方法、教育評価の方針に基づき、カリキュラム編成と授業実施を行う。カリキュラムの体系性、各授業科目とディプロマ・ポリシーの対応関係についてはカリキュラムマップ等で明示する。

教育内容

- 1) カリキュラムは、成熟した市民としての基礎的素養を修得する《NGU 教養スタンダード科目》、国際文化学部の2学科に共通して必要な知識・技能を修得する《学部共通科目》、国際協力学科の専門性を深める《学科専門科目》から学ぶ。

- 2) 《学部共通科目》においては、実践的な語学力を修得するため、英語および第2外国語（ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語から選択）を履修する。また、グローバル時代の国際文化の概念、その前提となる日本文化の特質を理解する。
- 3) 《学科専門科目》においては、英語の実践的な運用能力を高めるとともに、日本および現代の世界に展開する多くの文化圏について、文化・歴史・社会・政治・経済など多面的な視点から学び、共生を前提とした国際協力・国際支援活動の現状についての知識を獲得する。また、入学時の導入教育から卒業研究に至るまで、少人数による演習を4年間履修する。
- 4) 《国際文化関連科目》として、国際文化学科の開講科目の中から国際理解・国際交流を学ぶ上で必要な科目を配当する。

教育方法

- 1) 多人数講義においてもICTを活用した情報提供ツールを積極的に活用し、知的興味・関心を醸成する。
- 2) 国際社会で活躍する多様な経験者から実践的な指導を受ける機会を、授業や学科行事の中で多様に展開する。
- 3) 座学で学んだ国際協力・国際支援のあり方を実践的に理解するため、スタディーツアーや、地域リサーチ活動を実施する。
- 4) それぞれの授業においてあらかじめ示された教育目標を達成させるとともに、個々の学生の学習進度に即して適切な課題や練習問題を与えることで、自学的学習を支援し、レポート課題や学習成果の評価を客観的かつ適切に実施する。
- 5) 講義科目においては、小テストや面接を通して受講生の学習状況や理解度の把握に努める。演習科目については、担当教員が学生相互の議論を誘導し、集団討議や成果発表を行う。

学修成果の評価

- 1) 各科目の評価は、原則として平常点および期末試験等による総合評価（100点満点）により行われる。
- 2) 思考力・判断力・表現力・態度等については、達成度指標を設けて段階的に評価する。
- 3) 4年間の学修成果の最終的なまとめとして、卒業論文（必修）の作成・発表を重視し、ディプロマ・ポリシーに適合するか否かについて評価する。

アドミッション・ポリシー（入学受入方針）

求める学生像

国際協力学科では、国際的視野をもって自立した将来設計を描くことを希求する者や国際協力実践現場で貢献することを目標とする者、具体的には下記の要件を備えたものを入学者として受け入れの対象とする。

- 1) グローバル時代における価値の共有化の中で、地域固有の文化に目を向け、地域の言語・文化・社会・経済などに多様な視点で関心をもつ者。
- 2) 実践的ツールとしての外国語運用能力を高める意志の強固な者。
- 3) 現実社会から実践的に課題を掘り起こし、その解決のための方策を考え行動する者。
- 4) 具体的な将来目標として、国際機関や国際民間組織等で働くことを目指す者、国際協力・国際支援に関わるような活動に積極的に参画しようとする者、国際的ビジネスパーソン、国際的視野をもって観光・流通・交通などの業をめざす者、海外で日本を紹介し、また日本語・日本文化の指導者として活躍することを希望している者など。

入学時までに身に付けるべき知識、能力等

- 1) 高等学校の教科に関する基礎的・基本的な知識・技能
- 2) 基礎的・基本的な知識・技能に基づき、自分の考えをまとめ、他者に伝えるための思考力・判断力・表現力
- 3) 教科の学習にとどまらず、学校内外の多様な学習や活動を経験することによる、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

入学者選抜

本学は、大学入学時までには培われた確かな基礎学力、各学部学科への適性、多様な学習や活動を通じて身に付けた能力や意欲等を、多面的・総合的に評価することを入学者選抜の基本的な方針としている。国際協力量科においてもこの原則に基づき、下記の多様な入学者選抜を実施する。

1) 学力試験

本学独自の学力試験または「大学入試センター試験」の成績に基づき、本学での学修に必要な基礎学力を有すると判断した者を選抜する。

2) 推薦試験

書類審査、面接、小論文等により、高等学校での成績や諸活動（特別活動、部活動、生徒会活動、取得資格等）の状況、各学部学科への適性や意欲等を評価する。

3) AO 試験

本学第1志望者を対象とし、書類審査（調査書等・事前課題）および講義・試験・ディスカッション等により、専攻学問分野の修得に必要な基礎的理解力・考察力・協調性・表現能力等を評価する。

4) グローバル人材特別入学試験

本学入学を第1志望とし、すでに英語運用能力において一定の学力を有するものを対象として、書類審査（調査書等）および面接により意欲、適性等を評価する。

カリキュラムの概要

国際協力量科の科目について

(1) 学科基幹科目

《学科基幹科目》は「国際文化協力」「国際文化支援」の学修の根幹をなす重要な科目を集めています。国際共通語としての英語のスキルを高めるため、1・2年次必修科目の「英語演習 1～6」を配置し、《NGU 教養スタンダード科目》<国際コミュニケーションスキル>科目と有機的に連動した外国語教育体系を構築しています。これらは国際文化を学修するための基本的なスキルであり、同時に2年次必修科目の「国際関係論」および「国際協力論」から多様に展開する多文化・異文化学習と相俟って、国際文化協力・国際文化支援を推進させるための学習体系となっています。

このほか、選択科目として以下の7科目を1・2年次に担当しています。

「国際文化支援論」「国際地理論」「開発社会学」「文化交流論」「国際社会学」「マイノリティ論」「ジェンダー論」

(2) 国際文化協力展開科目

《学科基幹科目》の学修と並行して《国際文化協力展開科目》および《国際文化支援展開科目》が配置され、多文化共生社会の現代的な課題に則して、広範な文化協力・文化支援体系の中から各自の専門的分野を選択することになります。それは個別の「地域」への文化協力・支援もしくは国際協力方法論としてそれぞれの学生の学習課題となり、学年進行に伴い専門的課題研究へと結実していきます。

《国際文化協力展開科目》は、国際関係のあり方を深く学ぶとともに、世界の中で日本が置かれた状況、とりわけ開発途上国と日本との関係を多様に学びます。2・3年次の選択科目として以下の11科目を配置しています。

「国際移民論」「日中関係論」「アジア政治論」「国際機構論」「平和学」「農村発展論」「アジア経済論」「国際企業論」「文化変容論」「アジア地域研究 1」「アジア地域研究 2」

(3) 国際文化支援展開科目

《学科基幹科目》の学修と並行して《国際文化協力展開科目》および《国際文化支援展開科目》が配置され、多文化共生社会の現代的な課題に則して、広範な文化協力・文化支援体系の中から各自の専門的分野を選択することになります。それは個別の「地域」への文化協力・支援もしくは国際協力方法論としてそれぞれの学生の学習課題となり、学年

進行に伴い専門的課題研究へと結実していきます。

《国際文化支援展開科目》の科目区分では、特に開発途上国の支援を念頭に据え、開発途上地域の実情を理解し、支援活動を考察することで、現実的な途上国支援のあり方を学びます。2・3年次の選択科目として以下の9科目を配置しています。

「文化マネジメント論」「多文化共生社会論」「異文化コミュニケーション論」「多文化教育論」

「世界遺産と保全」「国際環境文化論」「国際人権論」「比較地域生活史」「企業文化論」

(4) 国際文化関連科目

国際文化学科開設科目を中心に《国際文化関連科目》として選択20科目を配置し、本学科の教育目標である国際文化協力・国際文化支援を支えるべき広範な国際文化の視野を習得することができます。

(5) 留学単位振替科目

国際文化学部では、可能なかぎり海外での研修・実地体験を経験するために、留学やスタディーツアーへの参加を推奨しています。本学が実施する長期留学（1年間）や中期留学（およそ6か月）に参加し、その期間中に当該大学で修得した正規の単位については、本学部の規程に従って、本学部の教育課程にある科目に振替認定することができます。また短期留学やスタディーツアーでの学修は、《留学単位振替科目》の「海外事情1～4」として認定されます。

カリキュラム上の特色

国際文化学部は、建学の精神である「敬神愛人」にもとづき、4年間の間に《NGU 教養スタンダード科目》に配当されている多彩な科目によって本学の礎であるキリスト教主義とその実践的課題を学ぶとともに、現代社会で生きるために知恵と知識、さらにはコミュニケーションの基礎を学修します。これは名古屋学院大学で学ぶ上での基礎的教養を形成する大切なプロセスです。

国際文化学部としての専門教育においては、優れた外国語運用能力とともに、多文化間の相互理解と交流、さらには文化的支援に主力を置いた国際協力をとおして、グローバルに活躍する人材を育成することを学部のカリキュラム・ポリシーの中心に据えています。本学部が学生に修得させる能力は、以下のようにまとめることができます。

- ① グローバル社会に生起するさまざまな問題についての確に対応できる多文化理解と持続的社会形成のための思考力・判断力・行動力を身につける。
- ② グローバルに展開する社会・経済・文化の持続的発展に貢献する豊かな教養と人間性を養う。
- ③ グローバル社会に対応するために、日本文化の基礎を確実に身につけ、多文化理解における比較文化の視点を明確にもたせる。
- ④ 多様な文化的世界において、自己の考え方を相手に正しく説明し、また、相手の意見を十分に理解するコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身につけさせる。

これらの能力を修得させるため、国際文化学部の教育課程を《NGU 教養スタンダード科目》《学部共通科目》《学科専門科目》から編成していますが、特に学部共通の課題として多くの科目が提供されています。

《学部共通科目》の中の〈国際コミュニケーションスキル〉は、多様な文化的世界におけるコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を獲得するものです。また、〈国際理解〉科目は、グローバル社会に生起するさまざまな問題についての確に対応できる多文化理解を養うものとして配当されています。

〈国際コミュニケーションスキル〉には国際共通語としての英語の段階的な学習に沿った科目を11科目（11単位）配置しています。また、第2外国語としてドイツ語、フランス語、スペイン語および中国語の科目をそれぞれ6科目（6単位）ずつ配置し、2年次から3年次に配当しています。「時事」「応用」「実践」のそれぞれ「1」と「2」を選択必修とし、《NGU

教養スタンダード科目の「入門」「基礎」のそれぞれ「1」と「2」と合わせて10単位分を修得することで、英語以外の言語でも実践的な力をつけることを目標としています。さらにアジア諸語の入門科目、現代社会で必須の「コンピュータ技法」に関する科目が配当されています。

＜国際理解＞科目は、国際文化・国際社会を理解するための基本的な学修に則した科目を配置しています。とりわけ、グローバル時代の国際文化の概念とあり方を考察する「国際文化論」および、国際文化を学ぶ前提となる日本文化の特質を理解する「日本文化論」を必修として、日本の歴史と現状を見据えた国際人となることを期待しています。また、選択科目として、本学の建学の精神に連なる「キリスト教文化論1・2」のほか、「グローバル社会文化論」「日本史概説」「比較宗教論」「国際関係論」などを開講することにより、国際的な理解・交流・協力・支援のマインドを身につけ、＜学科専門科目＞の学修を効果的なものとするようにカリキュラム設計がなされています。

このような学部カリキュラム全体の上に、さらに国際協力学科では、独自の特色を加味しています。

国際協力学科の特色

国際協力学科の＜学科専門科目＞は＜学科基幹科目＞＜国際文化協力展開科目＞＜国際文化支援展開科目＞＜国際文化関連科目＞＜演習科目＞＜海外留学振替科目＞から構成されています。国際協力学科では、＜学科専門科目＞において、以下で示すようにとりわけ「国際文化協力」「国際文化支援」の学修を目標としています。

- ① 文化交流を基礎にした国際協力のあり方を理解するとともに、国際的な場における協力とは何かを実践的に学修するための分野
- ② 国際社会における文化支援の実態を学修し、日本の果たすべき役割を考究する能力を身につけさせるための学修分野
- ③ 特に発展途上国を中心に現地学習をもとに課題を発見し、問題解決に必要な自己の行動のあり方を学修させるための実践的分野

その他

国際協力を学ぶ上で、海外における生活体験・行動経験あるいは国内外でのフィールドワークはとても大切なものです。時間や経済的に多くの制約条件がありますが、多くの学生が経験を積む機会を得られるように、留学、スタディーツアーなどを卒業要件単位の中で履修できるように配慮されています。

国際協力学科では「スタディーツアー」を重要な実践科目として位置づけています。これは選択科目であり、多くは夏季または春季休暇に集中形式で実施されますが、在学期間中に参加・体験することを推奨しています。国際協力学科が実施する「スタディーツアー」の単位修得には「国際協力実践論1」（春学期開講）および「国際協力実践論2」（秋学期開講）の同時履修が前提となります。

学科専門科目への認定

社会で役立つ実践的な教育を重視している国際協力学科では、資格試験や留学など、みなさんの志望にあわせて効果的な学修ができるよう、さまざまな資格取得のためのバックアップをおこなっています。教育課程（カリキュラム）の中で、各種の資格検定試験に向けての指導をおこなうほか、学科が指定した資格検定試験の結果をみなさんが申請することにより、所定の単位を認定（R 評価として認定）する制度があります。次の各項に掲げる資格検定試験の合格者（基準点を示している試験については、この基準点をクリアした学生）については、次の授業科目の単位を修得したものと認定しています。これらに該当し認定を希望する学生は、定められた期間内に教務課で所定の手続きをおこなってください。ただし、入学前に取得した資格等は、入学年度以外は申請を許可しません。同科目を履修中の場合は、申請が認められ次第、同科目の単位が認定されますので、それ以降の受講は不要となります。

国際協力学科の検定試験結果による単位認定について

項番	単位認定の対象となる検定試験	認定される授業科目 (単位数)	認定される 単位数合計
1	実用英語技能検定（英検） 2級以上 TOEIC Listening&Reading または TOEIC Listening&Reading IP 480 点以上 TOEFL ITP 430 点以上 TOEFL iBT 40 点以上	② 英語演習 3・4・5・6（各 1）	1 単位以内
2	ドイツ語技能検定試験（独検） 5級以上 ドイツ語検定試験（ゲーテ・インスティトゥートの検定試験） A1 以上 オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験（ösd（エーエスデー）） A1 以上	③ 応用ドイツ語 1・2（各 1） ④ 時事ドイツ語 1・2（各 1）	1 単位以内
	ドイツ語技能検定試験（独検） 4級以上 ドイツ語検定試験（ゲーテ・インスティトゥートの検定試験） A2 以上 オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験（ösd（エーエスデー）） A2 以上	④ 応用ドイツ語 1・2（各 1） ⑤ 時事ドイツ語 1・2（各 1） ⑥ 実践ドイツ語 1・2（各 1）	1 単位以内
3	実用フランス語技能検定試験（仏検） 5級以上 フランス語能力認定試験（TEF） A1 以上	③ 応用フランス語 1・2（各 1） ④ 時事フランス語 1・2（各 1）	1 単位以内
	実用フランス語技能検定試験（仏検） 4級以上 フランス語能力認定試験（TEF） A2 以上	④ 応用フランス語 1・2（各 1） ⑤ 時事フランス語 1・2（各 1） ⑥ 実践フランス語 1・2（各 1）	1 単位以内
4	スペイン語技能検定（西検） 6級以上 DELE（外国語としてのスペイン語検定試験） A1 以上	③ 応用スペイン語 1・2（各 1） ④ 時事スペイン語 1・2（各 1）	1 単位以内
	スペイン語技能検定（西検） 5級以上 DELE（外国語としてのスペイン語検定試験） A2 以上	④ 応用スペイン語 1・2（各 1） ⑤ 時事スペイン語 1・2（各 1） ⑥ 実践スペイン語 1・2（各 1）	1 単位以内
5	中国語検定試験（中検） 準4級以上 HSK（漢語水平考試） 1級以上	③ 応用中国語 1・2（各 1） ④ 時事中国語 1・2（各 1）	1 単位以内
	中国語検定試験（中検） 4級以上 HSK（漢語水平考試） 2級以上	④ 応用中国語 1・2（各 1） ⑤ 時事中国語 1・2（各 1） ⑥ 実践中国語 1・2（各 1）	1 単位以内

- (1) 単位が認定される授業科目の成績評価は、いずれの場合も「R」とします。
- (2) 1 について、英検・TOEIC・TOEFL の申請は各 1 回とします。
- (3) 2、3、4、5 について、申請は 2 回までとします。
- (4) 2、3、4、5 について、選択言語にかぎりません。
- (5) 5 について、HSK（漢語水平考試）の結果が合否でなくスコア表示の場合は、180 点以上の得点とします。
- (6) 申請は教務課で受け付けます。

- (7) 申請日以前2年以内に取得したものにかぎります(ただし、入学前に取得した資格の単位認定申請については、入学年度にかぎり受けつけますが、翌年度以降の申請は受けつけません)。

他学科科目の履修

国際文化学部では、他学科科目の履修が認められており、《自由選択科目(フリーゾーン)》として卒業要件に含まれます。なお、詳細は別途案内します。

演習科目について

演習科目とは

《演習科目》は1年次から卒業まで必修として配当されています(1年次においては《NGU教養スタンダード科目》の枠組みで配置)。2年次に配当される「国際協力基礎演習1・2」では国際理解・交流の基礎を学び、3・4年次に配置されている「国際協力演習」では担当教員の指導を得ながら卒業研究・論文作成に至る専門的学修をおこないます。また、「国際協力実践論1・2」において国際場面における実践的学習の方法と実践後のプレゼンテーションを学び、海外で実施される短期研修での体験と有機的に結合させるようにプログラム化されています。

演習科目の履修にあたって

1年生が対象の「基礎セミナー」「発展セミナー」はあらかじめクラス指定がされています。また2年生で開講される「国際協力基礎演習」も原則的にクラス指定をして、広く国際協力・国際支援に関する自主的学習のための基礎づけをおこないます。3・4年を対象とする「国際協力演習」は2年間連続して受講し、卒業論文を提出することによって所定の単位が与えられます。「国際協力演習」の選択にあたっては、学生のみなさんが希望する教員・専門的分野を選択し、教員の選考を経てゼミの一員となることができます。

「国際協力演習」の履修について

「国際協力演習」の所属は、学生への希望調査をもとに成績・面接などによって選抜し決定します。なお、その履修にあたっては、次の2つの条件をクリアしていなければなりません。

- ① 「基礎セミナー」の単位を修得していること
- ② 2年次の終了時点で、40単位以上を修得していること

履修モデル

国際協力学科の履修モデルの考え方は次のとおりです。

国際協力学科の養成する人材像に対応して、「文化協力」「文化支援」に則した履修モデルをそれぞれ提示しますが、これはあくまでもモデルであり、学修の方向性を示すとともに、各学生の進路希望にあわせて履修科目についてのアドバイスですから、学生のみなさんは、それぞれの興味・関心にふさわしい科目選択をするように心がけ、その際の参考として活用してください。

① 国際理解にもとづく文化協力の担い手として活躍する学生のために(文化協力モデル)

a) 想定される進路

観光・流通・航空業などを中心とした民間企業、とりわけアジア諸国との関係が深い企業活動や、アジアを中

心とした国際協力活動に従事する機関や団体など

b) 履修モデルの考え方

国際理解・多文化交流のあり方を自覚的に考察する能力を養い、多様化しつつ、さらに格差を拡大している現実のグローバル社会における文化協力と、文化的共生を核にした国際貢献を實踐できる能力を養うことを目標とします。

c) 履修科目の概要

国際文化学部において、英語教育の根幹部分は必修科目として配当されています。国際協力学科も、1年次の学生は、《NGU 教養スタンダード科目》における必修の「基礎英語1・2」「英会話1・2」で基礎的な英語力を修得すると同時に、国際協力学科《基幹科目》における必修の「英語演習1・2」を履修します。続いて2年次で「英語演習3・4・5・6」(必修)を履修し、いっそう応用力を増した英語力を獲得することが目標です。同時に、本学科では第2外国語を選択必修とし、ドイツ語、フランス語、スペイン語、および中国語のいずれかについて、1年次から3年次まで、10科目(10単位)を履修します。このほか、さらに上級の英語能力を養う科目を多数配置し、選択することが可能です。

この履修モデルでは、国際社会における共生・協力に関して、国際関係・国際協力の原理と実体を正確に理解し、国際協力とりわけ文化協力の場面で実践的な対応が取れる人材の養成をめざします。《学科基幹科目》における必修科目の「国際関係論」「国際協力論」に加えて、「国際文化支援論」「開発社会学」「文化交流論」さらには「ジェンダー論」や「マイノリティ論」などを学ぶこととなります。これにより、単に世界を既成の地理的な区分で理解するのではなく、それぞれの国や地域あるいは文化圏において多相な人々の現実の生活があることを理解することができます。さらに、《国際文化協力展開科目》の「国際移民論」「アジア政治論」「国際機構論」「アジア地域関係1・2」などをとおして国際関係のあり方を深く学ぶとともに、世界の中で日本が置かれた状況、とりわけ開発途上国と日本との関係を多様に学ぶことで、国際協力の真のあり方を学修し、実践力を身につけることができるようになると考えています。

② 国際文化支援の実践者として活躍する学生のために(文化支援モデル)

a) 想定される進路

国内における国際協力事業のみならず、国際的活動をしているNGO・NPO、国際公務員など

b) 履修モデルの考え方

開発途上地域の実情やそこでの支援活動を理解し、現実的な途上国支援のあり方について学び、国内外で積極的な国際支援活動へ参画できる能力を養うことを目標とします。

c) 履修科目の概要

英語および第2外国語に関する履修科目については、上記の「文化協力モデル」と同様です。

国際支援を中心に据えたこのモデルでは、文化協力モデルと同様に、《学科基幹科目》における必修科目の「国際関係論」「国際協力論」に加えて、「国際文化支援論」「開発社会学」「文化交流論」さらには「ジェンダー論」や「マイノリティ論」などを学びます。これにより、単に世界を既存の地理的な区分で理解するのではなく、それぞれの国や地域あるいは文化圏において多相な人々の現実の生活があることを理解できるようになります。さらに、《国際文化支援展開科目》において「文化マネジメント論」「多文化共生社会論」「多文化教育論」「国際人権論」など、特に開発途上国の支援を念頭に据えた科目を中心に履修します。あわせて、「国際環境文化論」「企業文化論」「世界遺産と保全」など、開発途上地域の実情を理解し、支援活動を考察することで、現実的な途上国支援のあり方を学ぶとともに、現実のグローバル社会とりわけ開発途上国に対する実践的な支援展開のための実践力を養うことにあります。この能力は対外活動が活発な日本企業で働く上でも、重要で役に立つ技能でもあります。

卒業要件

卒業要件単位の修得

国際文化学部のカリキュラム表にもとづいて必要な単位数（124 単位）以上を修得しなければなりません。

卒業要件単位数

上記の、学則第 16 条に規定する単位数（124 単位）を卒業要件単位数といいます。それぞれの単位数には必修科目を含みます。授業科目表と照らして区分ごとの要件をよく確認し、4 年間の履修計画をしっかりと立ててください。

NGU教養 スタンダード科目	キリスト教		4単位以上	34単位以上
	自己理解と自己開発		6単位以上	
	社会的教養	人間理解、社会理解、自然理解 歴史文化理解、環境理解 身体理解、地域理解	12単位以上	
	言語とコミュニケーション		10単位以上	
	情報理解		2単位以上	
学部共通科目				16単位以上
学科専門科目	学科基幹科目		18単位以上	56単位以上
	国際文化協力展開科目		26単位以上	
	国際文化支援展開科目			
	国際文化関連科目			
	留学単位振替科目			
演習科目		12単位		
自由選択科目(フリーゾーン) ^{※1}				18単位以上
合計				124単位以上

※1 NGU教養スタンダード科目、学部共通科目、学科専門科目、オープン科目を問わない自由な選択

授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング	
	必修	選択			
キリスト教					
キリスト教概説	2		1	AV1101	
キリスト教概説	2		1	AV1102	
キリスト教と文学		2	2	AV2301	
キリスト教と文化		2	2	AV2302	
キリスト教倫理		2	2	AV2303	
キリスト教史		2	1	AV1301	
自己理解と自己開発					
基礎セミナー	2		1	AW1101	
発展セミナー		2	1	AW1301	
キャリアデザイン1a		2	1	AW1302	
キャリアデザイン1b		2	1	AW1303	
キャリアデザイン2a		2	2	AW2301	
キャリアデザイン2b		2	2	AW2302	
キャリアデザイン3a		2	3	AW3301	
キャリアデザイン3b		2	3	AW3302	
ボランティア学		2	1	AW1304	
ボランティア演習		2	1	AW1305	
インターンシップ1		2	1	AW1306	
インターンシップ2		2	1	AW1307	
社会的教養					
人間理解	哲学		2	1	AX1301
	哲学史		2	1	AX1302
	日本文学		2	1	AX1304
	日本文学史		2	1	AX1305
	心理学概論		2	1	AX1306
	文明論		2	1	AX1310
	宗教と人間		2	1	AX1311
	聖書と人間		2	1	AX1312
	キリスト教人間学		2	2	AX2301
	死生学		2	1	AX1313
	臨床心理学		2	1	AX1314
	社会理解	社会学入門		2	1
宗教社会学			2	1	AX1316
比較宗教学			2	1	AX1317
日本国憲法			2	1	AX1318
現代社会と法律			2	1	AX1319
現代社会と経済			2	1	AX1321
企業と社会			2	1	AX1323
国際関係論入門			2	1	AX1324
国際政治学			2	1	AX1325
国際社会問題			2	1	AX1327
現代社会と教育			2	1	AX1328
平和学入門			2	1	AX1329
人権と社会		2	1	AX1330	
自然理解	数学		2	1	AX1331
	数理科学		2	1	AX1332
	基礎統計学		2	1	AX1333
	実用統計学		2	1	AX1334
	化学		2	1	AX1335
	生物学		2	1	AX1337
	地球科学概論		2	1	AX1338
	地球物理学概論		2	1	AX1339
	人類学		2	1	AX1340
	物理学		2	1	AX1341
	生命倫理		2	1	AX1343

授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング	
	必修	選択			
歴史文化理解	日本史		2	1	AX1344
	日本思想史		2	1	AX1345
	中国文化入門		2	1	AX1347
	英米文化入門		2	1	AX1348
	文化人類学入門		2	1	AX1349
	世界の近現代史		2	1	AX1350
	世界史		2	1	AX1351
	考古学入門		2	1	AX1352
	陶芸論		2	1	AX1353
	陶芸演習		2	1	AX1354
環境理解	環境科学		2	1	AX1355
	生態学		2	1	AX1356
	地球環境学		2	1	AX1358
身体理解	健康の科学		2	1	AX1359
	スポーツの科学		2	1	AX1360
	スポーツ初級A		1	1	AX1361
	スポーツ初級B		1	1	AX1362
	スポーツ中級A		1	2	AX2302
	スポーツ中級B		1	2	AX2303
	スポーツ上級A		1	3	AX3301
スポーツ上級B		1	3	AX3302	
地域理解	地域商業まちづくり学		2	1	AX1363
	歴史観光まちづくり学		2	1	AX1364
	減災福祉まちづくり学		2	1	AX1365
	地域商業まちづくり演習		2	1	AX1366
	歴史観光まちづくり演習		2	1	AX1367
	減災福祉まちづくり演習		2	1	AX1368
	上級まちづくり演習		2	2	AX2304
言語とコミュニケーション					
日本語表現		2	1	AJ1101	
日本語表現上級			2	1	AJ1301
基礎英語1		1	1	AJ1102	
基礎英語2		1	1	AJ1103	
英会話1		1	1	AJ1104	
英会話2		1	1	AJ1105	
入門ドイツ語1			1	1	AJ1201
入門ドイツ語2			1	1	AJ1202
基礎ドイツ語1			1	1	AJ1203
基礎ドイツ語2			1	1	AJ1204
入門フランス語1			1	1	AJ1205
入門フランス語2			1	1	AJ1206
基礎フランス語1			1	1	AJ1207
基礎フランス語2			1	1	AJ1208
入門スペイン語1			1	1	AJ1209
入門スペイン語2			1	1	AJ1210
基礎スペイン語1			1	1	AJ1211
基礎スペイン語2			1	1	AJ1212
入門中国語1			1	1	AJ1213
入門中国語2			1	1	AJ1214
基礎中国語1			1	1	AJ1215
基礎中国語2			1	1	AJ1216
入門韓国語1			1	1	AJ1217
入門韓国語2			1	1	AJ1218
基礎韓国語1			1	1	AJ1219
基礎韓国語2			1	1	AJ1220
手話入門			1	1	AJ1302
手話基礎			1	1	AJ1303
情報理解					
情報処理基礎		2	1	AZ1101	
情報概論			2	2	AZ2301

選択必修科目

ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語の中から1ヶ国語を選択し、入門・基礎・時事・応用・実践の1と2を修得しなければなりません。

入門ドイツ語1・2	入門スペイン語1・2
基礎ドイツ語1・2	基礎スペイン語1・2
時事ドイツ語1・2	時事スペイン語1・2
応用ドイツ語1・2	応用スペイン語1・2
実践ドイツ語1・2	実践スペイン語1・2
入門フランス語1・2	入門中国語1・2
基礎フランス語1・2	基礎中国語1・2
時事フランス語1・2	時事中国語1・2
応用フランス語1・2	応用中国語1・2
実践フランス語1・2	実践中国語1・2

国際協力学科 専門科目

授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング
	必修	選択		
国際コミュニケーションスキル				
国際文化理解英語1		1	2	WY2301
国際文化理解英語2		1	2	WY2302
留学英語中級		1	2	WY2303
留学英語上級		1	2	WY2304
TOEIC英語入門		1	1	WY1301
TOEIC英語基礎1		1	2	WY2305
TOEIC英語基礎2		1	2	WY2306
TOEIC英語実践1		1	2	WY2307
TOEIC英語実践2		1	2	WY2308
ビジネス英語1		1	2	WY2309
ビジネス英語2		1	2	WY2310
時事ドイツ語1		1	2	WY2311
時事ドイツ語2		1	2	WY2312
応用ドイツ語1		1	2	WY2313
応用ドイツ語2		1	2	WY2314
実践ドイツ語1		1	3	WY3301
実践ドイツ語2		1	3	WY3302
時事フランス語1		1	2	WY2315
時事フランス語2		1	2	WY2316
応用フランス語1		1	2	WY2317
応用フランス語2		1	2	WY2318
実践フランス語1		1	3	WY3303
実践フランス語2		1	3	WY3304
時事スペイン語1		1	2	WY2319
時事スペイン語2		1	2	WY2320
応用スペイン語1		1	2	WY2321
応用スペイン語2		1	2	WY2322
実践スペイン語1		1	3	WY3305
実践スペイン語2		1	3	WY3306
時事中国語1		1	2	WY2323
時事中国語2		1	2	WY2324
応用中国語1		1	2	WY2325
応用中国語2		1	2	WY2326
実践中国語1		1	3	WY3307
実践中国語2		1	3	WY3308
コミュニケーション中国語1		1	1	WY1302
コミュニケーション中国語2		1	1	WY1303
ビジュアル中国語		1	2	WY2327
日常中国語1		1	2	WY2328
日常中国語2		1	2	WY2329
中国語検定読解入門		1	3	WY3309
アジア言語入門1		1	2	WY2330
アジア言語入門2		1	2	WY2331
コンピュータ技法1		2	2	WY2332
コンピュータ技法2		2	2	WY2333
国際理解				
国際文化論	2		1	WY1101
キリスト教文化論1		2	2	WY2334
キリスト教文化論2		2	2	WY2335
文化人類学		2	1	WY1304
グローバル社会文化論		2	1	WY1305
日本史概説		2	1	WY1306
日本文化論	2		1	WY1102
比較宗教論		2	2	WY2336
宗教と平和		2	2	WY2337
国際環境論		2	2	WY2338
学部基幹科目	英語演習1	1	1	WY1103
	英語演習2	1	1	WY1104
	英語演習3	1	2	WY2101
	英語演習4	1	2	WY2102
	英語演習5	1	2	WY2103
	英語演習6	1	2	WY2104
	国際関係論	2	2	WY2105
	国際協力論	2	2	WY2106
	国際文化支援論	2	2	WY2339
	国際地理論	2	1	WY1307
	開発社会学	2	2	WY2340
	文化交流論	2	2	WY2341
	国際社会学	2	2	WY2342
	マイノリティ論	2	2	WY2343
	ジェンダー論	2	2	WY2344

授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング	
	必修	選択			
国際文化協力展開科目	国際移民論		2	2	WY2345
	日中関係論		2	2	WY2346
	アジア政治論		2	2	WY2347
	国際機構論		2	2	WY2348
	平和学		2	2	WY2349
	農村発展論		2	2	WY2350
	アジア経済論		2	2	WY2351
	国際企業論		2	3	WY3310
	文化変容論		2	3	WY3311
	アジア地域研究1		2	3	WY3312
アジア地域研究2		2	3	WY3313	
国際文化支援展開科目	文化マネジメント論		2	2	WY2352
	多文化共生社会論		2	2	WY2353
	異文化コミュニケーション論		2	2	WY2354
	多文化教育論		2	2	WY2355
	世界遺産と保全		2	3	WY3314
	国際環境文化論		2	3	WY3315
	国際人権論		2	2	WY2356
	比較地域生活史		2	3	WY3316
	企業文化論		2	3	WY3317
	比較文化・社会論1		2	2	WY2357
国際文化関連科目	比較文化・社会論2		2	2	WY2358
	メディア文化論		2	2	WY2359
	観光文化論		2	2	WY2360
	現代アジア文化社会論		2	2	WY2361
	韓国文化社会論		2	2	WY2362
	アメリカ社会文化論		2	2	WY2363
	アメリカ政治経済論		2	2	WY2364
	ヨーロッパ文化総論		2	2	WY2365
	環太平洋地域文化論		2	3	WY3318
	イスラム文化圏論		2	3	WY3319
	開発経済学		2	2	WY2366
	国際福祉論		2	2	WY2367
	NPO・NGO論		2	2	WY2368
	英米文学概論1		2	2	WY2369
	英米文学概論2		2	2	WY2370
英米文学講義1		2	2	WY2371	
英米文学講義2		2	2	WY2372	
英文学史		2	2	WY2373	
米文学史		2	2	WY2374	
振替学科目	海外事情1		2	1	WY1601
	海外事情2		2	1	WY1602
	海外事情3		2	1	WY1603
	海外事情4		2	1	WY1604
演習科目	国際協力実践論1		2	1	WY1308
	国際協力実践論2		2	1	WY1309
	国際協力基礎演習1	2		2	WY2107
	国際協力基礎演習2	2		2	WY2108
	国際協力演習	8		3・4	WY3101, WY4101

卒業要件

NGU教養スタンダード科目	キリスト教	4単位以上	34単位以上
	自己理解と自己開発	6単位以上	
	社会的教養 人間理解、社会理解、自然理解 歴史文化理解、環境理解 身体理解、地域理解	12単位以上	
	言語とコミュニケーション 情報理解	10単位以上 2単位以上	
学部共通科目			16単位以上
学科専門科目	学科基幹科目	18単位以上	56単位以上
	国際文化協力展開科目	26単位以上	
	国際文化支援展開科目		
	国際文化関連科目		
	留学単位振替科目		
演習科目	12単位		
自由選択科目(フリーゾーン) ^{※1}			18単位以上
合計			124単位以上

※1 NGU教養スタンダード科目、学部共通科目、学科専門科目、オーブン科目を問わない自由な選択

オープン科目（こどもスポーツ教育学科、リハビリテーション学部を除く）

現代社会の諸問題はさまざまな学問分野が絡み合っており、学部の枠を越えた幅広い学際的な知識と能力が必要です。そこで、幅広い視野と柔軟な思考力を兼ね備えた人材を育成するため、他学部が開講する《専門科目》を卒業要件単位として履修できるオープン科目制度を設けています。

多くの学部で専門教育科目の一部をオープン科目として他学部公開するとともに、履修したオープン科目の単位を卒業所要単位として認定しています。オープン科目を学ぶことにより、学びの視野を広げ、専門分野の知識をいっそう深めることができます。

なお、オープン科目を履修する場合は、自分が所属する学部において必要な科目履修に支障をきたさないよう、授業時間割、履修上限単位数などに十分な注意を払うようにしてください。

オープン科目対象科目

- オープン科目は、各学部で指定された科目（開放科目）にかぎられます。
- オープン科目は、入学した年度によって異なります。履修を希望する場合は、該当する入学年度の「オープン科目（他学部履修科目）一覧」（毎年3月中旬頃、CCS 掲示板上に掲示します）を確認の上、CCS で該当する科目のシラバスを照会し、担当者、曜日・時限、講義内容などを確認してください。また、授業教室については、授業を公開する学部の時間割を参照してください。
- 自分の履修するカリキュラムにある科目と同一名称の科目がオープン科目にある場合、その科目は履修することはできません。
- オープン科目は年度によって変更となる場合があります。

※ なお、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科・リハビリテーション学部はオープン科目の対象としていません。

履修可能学部・履修条件・履修可能単位数

学部	履修条件	履修可能単位数
経済学部	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.5以上であること ・2年次：30単位以上、3年次：60単位以上、4年次90単位以上を修得していること 	1年間で4科目8単位まで履修可能 4年間で12単位まで
現代社会学部	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.0以上であること 	1年間で2科目4単位まで履修可能 4年間で8単位まで
商学部	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.0以上であること 	制限なし
法学部	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.5以上であること 	1年間で4科目8単位まで履修可能 4年間で12単位まで
外国語学部	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.0以上であること 	半期2単位、年間4単位まで
国際文化学部	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.0以上であること 	1年間で2科目4単位まで履修可能 4年間で8単位まで
スポーツ健康学部 スポーツ健康学科	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.0以上であること 	半期2科目まで

単位認定

《自由選択科目（フリーゾーン）》の科目として認定します。

履修方法

オープン科目の履修希望者は以下の手順で申し込みをおこなってください。

- ① 時間割開示時に、オープン科目一覧表で履修希望科目を決定する。
- ② 教務課窓口または瀬戸キャンパス総合事務部にて、「オープン科目履修願」を記入し、提出する（オープン科目については CCS から直接履修登録できません）。

なお、受付期間はオープン科目一覧表とともに CCS に掲示します。受付期間以外は一切受けつけできません。

- ③ 受付期間終了後、履修希望人数を集計、調整をおこない履修登録画面へ反映させます。

注意事項

- 履修を検討したい科目のシラバスを必ず読んでから受講してください。
- オープン科目の履修は Semester ごとの履修制限単位数の規則に従います。
- オープン科目対象科目の開講曜日時限は、科目を提供している学部の時間割にて確認してください。
- すべての科目に受講者数の定員を設けています。履修は、科目を提供している学部の学生を優先しますので、必ずしも履修願に記入した科目すべてが履修できるとはかぎりません。
- オープン科目の履修の取り消し、変更は一切できません。

他大学との単位互換

愛知学長懇話会の単位互換

愛知学長懇話会には、愛知県内すべての4年制大学が加盟しています。愛知学長懇話会において締結された「単位互換に関する包括協定」に加盟している大学に所属する学生は、他の大学で開講されるさまざまな科目を履修することができ、かつ、履修した科目が在籍する大学の単位として認められる制度です。愛知県内の大学に在学するメリットのひとつとしてぜひ活用してください。

なお、単位互換向けに開放される科目の受講料は無料ですが、科目によっては実験・実習・研修などの実費が必要となる場合があります。詳細は、愛知学長懇話会のホームページ (<http://aichi-gakuchou.jimu.nagoya-u.ac.jp/syllabustop>) を確認してください。

注意事項

派遣履修生資格	<ul style="list-style-type: none">各学部2年生以上 (以下、外国語学部で追加する資格)履修時に、学部卒業要件における修得単位数の合計が40単位以上上記修得単位のGPAがおおむね2.5以上
履修期間	1 Semesterまたは1学年とし、再応募することができる。
履修可能単位数	1 Semesterあたり6単位、もしくは1学年あたり12単位までとする。ただし、同一期間内で本学における履修とあわせて本学「履修規程」第6条の履修制限内とする。
認定可能単位数	学則第17条の定めにより他の大学における授業科目の履修として、60単位を超えない範囲で単位を認定する。

※ 3月頃に、CCSにて希望者の募集をおこないます。

大学連携による「知域」拡大プロジェクトの単位互換

北海道・関東・東海・近畿の大学連携による「知域」拡大プロジェクトは、加盟する6大学の開放科目を、eラーニングシステム「TIES(タイズ)」を利用して受講し、大学の単位として認められる制度です。詳細は、北海道・関東・東海・近畿の大学連携による「知域」拡大プロジェクトのホームページ (http://www.tiesnet.jp/link/renkei_gp) を確認してください。

注意事項

派遣履修生資格	各学部2年生以上
履修期間	相手先の連携大学で履修することのできる授業科目の開講学期とする。
履修可能単位数	1年度につき10単位以内とする。ただし、同一期間内で本学における履修とあわせて本学「履修規程」第6条の履修制限内とする。
認定可能単位数	本制度により認定できる単位数は合計30単位を上限とする。ただし学則第17条から19条に規定のある単位認定とあわせて、全体で60単位の範囲内とする。

※ 4月上旬頃に、CCSにて希望者の募集をおこないます。

ぎふCOC+事業推進コンソーシアムの単位互換

本学は「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に取り組んでいます。（P59 参照）その一環として「ぎふCOC+事業推進コンソーシアム」に参加しており、参加大学間の相互の協力・交流・連携並びに各大学の特色ある授業科目の開放によって、教育課程の充実、学生の幅広い視野の育成、学習意欲の向上を図ることを目的として、単位互換協定を結んでいます。

＜参加大学＞岐阜大学・中部学院大学・中部大学・日本福祉大学・名古屋学院大学

主に岐阜県を題材とした科目が中心となりますが、各大学の個性を活かした実践的な学びを通じて、社会人基礎力を向上させることができます。

詳細は、本学社会連携センターのホームページ（<https://www.ngu.jp/collaboration/>）を確認してください。

注意事項

派遣履修生資格	各学部1年生以上。ただし1年生は秋学期のみとする。
履修期間	相手先の連携大学で履修することのできる授業科目の開講学期とする。
履修可能単位数	1セメスターあたり4単位、もしくは1学年あたり8単位までとする。ただし、同一期間内で本学における履修とあわせて本学「履修規程」第6条の履修制限内とする。
認定可能単位数	本制度により認定できる単位数は合計30単位を上限とする。ただし学則第17条から19条に規定のある単位認定とあわせて、全体で60単位の範囲内とする。